研究室名
17-4-11 細胞生物学研究室
最近の研究課題とその取り組みの概要
<p>動物の体を構成する細胞は、その生理活性に応じて様々な基質に接着し運動します。この運動には、2種類の細胞骨格が重要な役割を担っています。1つはアクチン細胞骨格で、移動のための力を発生しています。神経細胞が伸長する神経突起は細胞運動研究の良いモデル構造で、私たちは刺胞動物の単離神経細胞を用いて神経突起伸長の制御機構を解析しています。もう1つの細胞骨格は微小管で、細胞内での物質輸送を担う極めて動的な構造です。私たちは、試験管内で再構成した微小管の動態をさまざまな方法で観察・測定し、この微小管の構造と機能の時空間的解析を進めています。</p> <p>神経細胞は神経突起を介してネットワークを形成し、多様な情報処理を行います。そのしくみを知るために、昆虫や刺胞動物を用いて外部情報を受容する触角や中枢神経ネットワークの構造を解析しています。</p> <p>キーワード： 神経細胞、細胞骨格、アクチン、微小管、アロメトリー</p>
研究室の構成員
<p>中川 裕之（教授）・博士（理学） 岩崎 雅行（助教）・理学博士 香月 美穂（助教）・博士（情報工学）</p>
2021年度の大学院生および卒論生の人数と研究テーマ
<p>大学院生（博士課程前期）3名 研究テーマ： ミズクラゲ筋原繊維のサルコメア構造形成 ミズクラゲポリプにおける神経環構造の観察 ミズクラゲポリプにおける神経突起の分布</p> <p>卒論生6名 研究テーマ： ミヤマカラスアゲハ鱗粉の色と微細構造の関係 アクチン重合を阻害したヒドラ単離神経細胞の神経突起の動態 ヒドラ単離神経細胞の培養条件の検討 ミズクラゲポリプ縦走筋の構造観察 ミズクラゲポリプ内部構造の低温飼育による変化 南極魚類と砂漠動物のα-およびβ-チューブリンにおけるアミノ酸配列解析</p>
教員の担当科目
<p>中川 裕之：(学部) 生物科学 I、生物学 A、生物科学、ミクロの生物科学、マクロの生物科学、構造生物学、生物科学実験 I、生物学実験、卒業論文 (大学院) 適応構造生物学講究、適応構造生物学実験、適応構造生物学特論 I、適応構造生</p>

<p>物学特別研究 I～VI</p> <p>岩崎 雅行：(学部) 生物学実験、生物科学実験 I</p> <p>香月 美穂：(学部) 生物学実験、生物科学実験 I</p>
<p>教員の所属学会</p>
<p>中川 裕之：日本細胞生物学会、生物物理学会、日本動物学会</p> <p>岩崎 雅行：日本比較生理生化学会、日本顕微鏡学会</p> <p>香月 美穂：日本生物物理学会、日本動物学会</p>
<p>最近5年間の学術論文</p>
<p>Chihiro Doki, Kohei Nishida, Shoma Saito, Miyuki Shiga, Hikari Ogara, Ayumu Kuramoto, Masahiro Kuragano, Motohiro Nozumi, Michihiro Igarashi, Hiroyuki Nakagawa, Susumu Kotani, Kiyotaka Tokuraku. (2020) Microtubule elongation along actin filaments induced by microtubule-associated protein 4 contributes to the formation of cellular protrusions. <i>J Biochem.</i> 168(3):295-303. doi: 10.1093/jb/mvaa046.</p> <p>Tsukuda S, Tamura A, Matsumoto K, Fujita Y, Nakata S, Kaneko T, Nakayama A, Nakagawa H, and Terasaki AG. (2019) In Vitro Differentiation of Chicken Astrocytes: Growth, Morphology, and Protein Expression of Astrocytes in Primary Cultures. <i>Zoolog. Sci.</i> 36: 458-467.</p> <p>von Loeffelholz O, Venables NA, Drummond DR, Katsuki M, Cross R, Moores CA. (2017) Nucleotide- and Mal3-dependent changes in fission yeast microtubules suggest a structural plasticity view of dynamics. <i>Nat Commun.</i> 8:2110.</p> <p>M. Fukuda, H. Umeno, K. Nose, A. Nishitarumizu, R. Noguchi and H. Nakagawa (2017) Construction of a guide-RNA for site-directed RNA mutagenesis utilising intracellular A-to-I RNA editing. <i>Scientific Reports</i>7: Article number: 41478.</p>
<p>最近5年間の学術著書</p>
<p>なし</p>
<p>最近5年間の学術国際会議での発表</p>
<p>なし</p>
<p>最近5年間の代表者としての学外資金導入実績</p>
<p>なし</p>
<p>最近5年間の代表者としての学内資金導入実績</p>
<p>なし</p>
<p>最近5年間の学会等学術団体における役職など</p>
<p>岩崎 雅行 (2016年1月～2019年12月) 比較生理生化学会評議員</p>
<p>最近5年間の一般向け論文と著書、行政報告書など</p>
<p>中川 裕之 (2018) 生物と科学 第4章, 第8章, 第10章 (木内一壽 編)</p>
<p>最近5年間の一般(非学術)集会での発表論文</p>

なし
最近5年間の学術団体以外の団体での啓蒙活動や社会貢献活動とその役職など
香月 美穂：生物物理学会「小中高校への講師派遣サポート事業」派遣講師（2016年度-）
その他特筆事項
なし